編集後記

Infopro ならば、利用者の立場に立って考えることが重要であることをはいうまでもないが、想像力も必要でないと、時には自ら利用者になってみることも考えるに一冊希望である。

趣味のために図書館を利用する、仕事などの調査のために母校の大学図書館を利用することは普通にしてきたものだが、まったくそれが心のなかに残るテーマで情報を探すということは、業務でレファレンスの経験がないと意味にないものである。

このところ、体調不良を改善するため、医療関係の情報をいろいろと調査していたのであるが、自分の大学時代の専攻や現在の職場の主な領域とは関わりが薄いため、どうして調べたらよいかしばしば考えた。（編集委員の中にはそれが専門の委員もいるので、てっとり早く読みたいと思う方法もあったのだが、そこは「勉強」のためであり、症状や原因の解釈、あるいは病院の選び方、薬の副作用、西洋医学だけでなく漢方についても、基本の医師や医師の書に当たるところから始め Google の検索まで、本誌の過去記事でも参照しつつ検討してみた。

その結果、感じたことは、調べる方の基本を守った方が信頼性の高い（と思われる）情報を得ること、Web 情報源は玉石混交であるということ Infopro には常識的なことなのであるが、このことを再確認できたことは有益であった。

聞病記のブログの予想以上の多さには、Web2.0 時代を実感し、励まされる思いもあったが、「あやしきな民間療法に気を付けるよう」という趣旨のサインが個人的な感情を痛しむ化、あり得た「あやしきな民間療法そのもの」であったりしたのは笑いながら、熟練してコメンタリーがなされているとは考えた。

専門家でなければ判断できない領域は当然存在するわけだが、常識的に何だかおかしいなと思うせる度合が感じているのではなくだろうか。

情報リテラシーというのは、実はそういった（あいまいで理論化しにくい）常識的な感じは感じているものではないかと思うのが、（あ）